

DNA標識を用いたガザミ種苗の放流後の追跡調査

種苗放流の効果を確認し、資源の回復を目指す

【背景・目的】

岡山県では小型機船底びき網漁業の主要漁獲対象種であるガザミ種苗の放流を行っていますが、瀬戸内海のガザミの漁獲量は減少傾向にあります。

近年、DNA標識による親子鑑定がガザミでも可能となったため、令和3年度から、(公社)全国豊かな海づくり推進協会、香川県、広島県および愛媛県と共同で、脱皮回数が異なるガザミ種苗の放流効果を調査しています。

この中から、本県で放流している3齢稚ガニ(稚ガニになってから脱皮回数2回：約1cm)の調査結果について紹介します。

【成果の内容】

材料と方法

水産研究所で生産し、令和3年6月10日に県西部海域へ放流された3齢稚ガニ(35.3万尾)の親ガザミ9尾と、10月から12月に岡山県西部と広島県東部海域で小型底びき網により漁獲された当歳ガザミ467尾について、DNA標識による親子鑑定を行いました。

結果

10月6日から11月11日に本県西部海域で漁獲された2尾と10月から12月に広島県東部海域で漁獲された3尾が当所で生産したガザミであることが確認されました。

表 本県西部海域へ放流された当歳ガザミの混入率

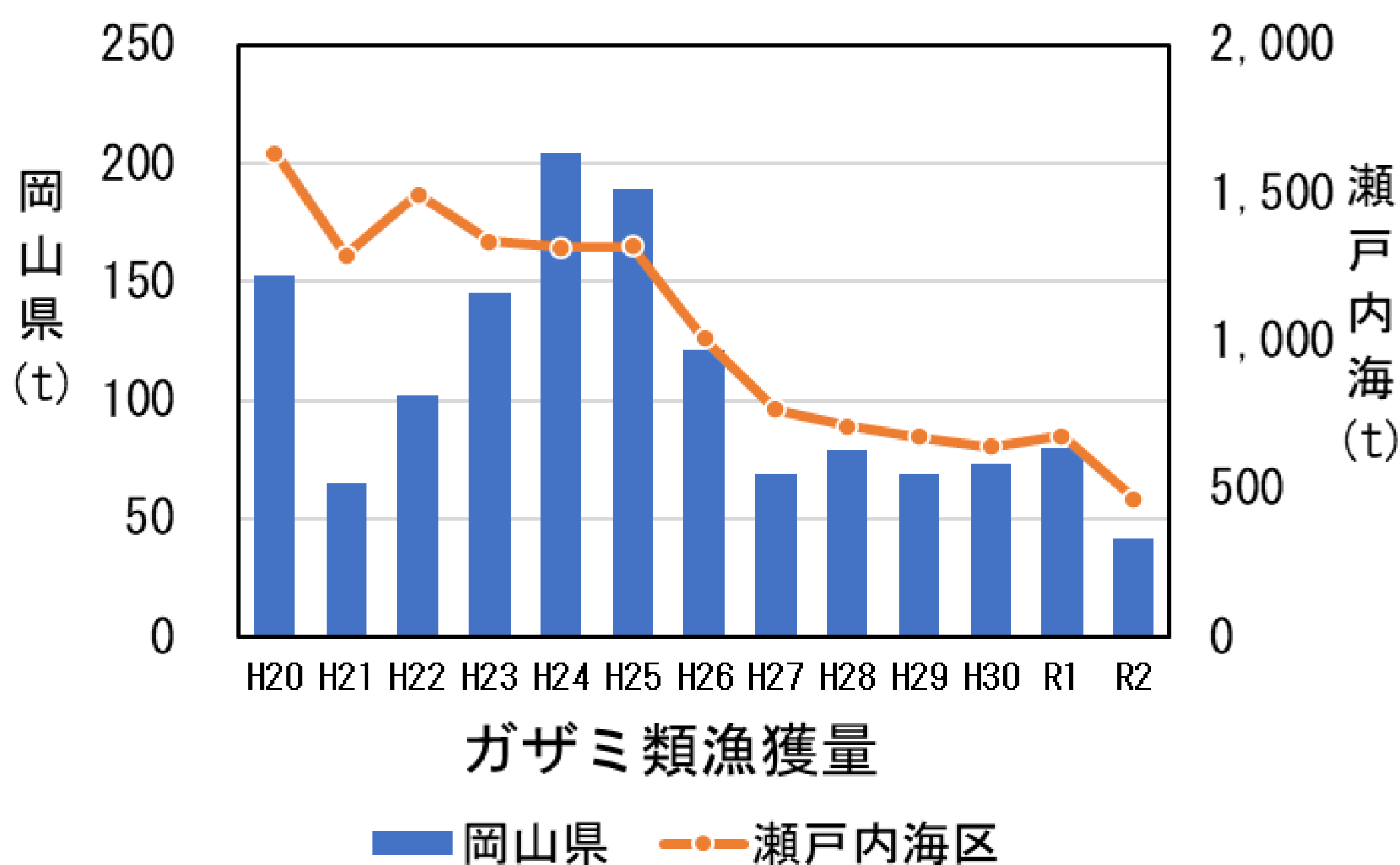
調査期間	調査海域	調査尾数(尾)	全甲幅(cm)	再捕尾数(尾)	混入率(%)	漁獲方法
10月6日～11月11日	岡山県西部	231	平均13(6～20)	2	0.9	小型底びき網
10月～12月	広島県東部	236	—	3	1.3	小型底びき網



3 齢稚ガニ
(全甲幅：1cm)



県西部海域で漁獲された当歳ガザミ
(全甲幅・雌雄：①20cm・雌、②19cm・雄)



当所が種苗生産したガザミが、岡山県海域では、放流約4ヶ月後には20cm弱の漁獲サイズまで成長し、漁獲に寄与していることが確認されました。今後は、1 齢稚ガニ(約5mm)の放流効果についても明らかにしていきます。

お問い合わせ先

岡山県農林水産総合センター 水産研究所
瀬戸内市牛窓町鹿忍6641-6 TEL. 0869-34-3074